

## パソコンを活用した図書室業務の紹介

橋 本 公 子（東京大学総合図書館，元 地震研究所図書室）

### はじめに

平成 6 年，所からパソコン（Macintosh）1 台が配布されてから，図書掛ではいくつかの業務を機械化し，また現在も二つの業務の機械化を計画中である．いずれの業務も Macintosh のアプリケーションソフトを使った簡単な機械化だが，それなりに省力化が図れている．パソコンを使うことによって業務の省力化が図れることは勿論だが，それと同時に，これまではアイディアで止まっていた業務が，考えていたよりも簡単に達成できそうな可能性がでてきたことは，パソコン導入の大きな功績であると思われる．図書掛では現在事務用として Macintosh 2 台，閲覧室に利用者用として Macintosh 1 台を使用している．

この報告ではこれまでに機械化した業務について簡単に記述し，さらに 2 つのデータベースの作成について述べる．後者は，パソコンを使うことによってよりプラスの図書館サービスが可能になる例と言えるもので，これらに關しては今後予算面などで所全体の理解を頂きたいため少し詳しく記述する．

### これまでに機械化した業務

#### 1. データベースソフト ファイルメーカー Pro を使って

##### 製本リスト・ブックカードの作成

図書掛では毎年約 700 冊の製本を業者に発注している．発注の際製本リストを作成するが，これは支払いと登録の際の明細書としても流用している．リストの機械化についてはこれまで幾度もワープロを使って試みたが，内容（タ

イトルや巻号，出版年）を挿入したりソートさせると，表フォーマットが乱れてうまくいかず結局毎年手書きしていた．今回ファイルメーカー Pro を使うことにより東京大学図書受入標（様式 2）のフォーマットでリストを作成することができた．またレイアウトを変えるだけでブックカードの打ち出しもできるようになり，非常に省力化された．

##### 新着図書リスト

図書委員会から，図書選定をする際の参考として所蔵図書の蔵書構成を示す資料を求められた．図書掛としては分類番号別蔵書構成は出せるがこれではあまりに大雑把で，選定の参考とはなり難い．そこで，これまでワープロで作成していた新着図書リストをファイルメーカー Pro で作成することにし，個々のタイトルにキーワードを付けるようにした．各レコードにはキーワードがつけられていて，何年分か蓄積されれば所蔵資料の蔵書構成がつかめることになっている．

##### 地図受入れ目録

新たに受け入れる日本の地図に関しては地名，シリーズ，出版者など複数の項目から検索できるようにした．既受入れ分についても入力する予定である．

##### 極端に不定期に発行される逐次刊行物の受入簿作成

発行が番号順になされず，何年にもわたって番号の入り繰りのある刊行物（U.S.G.S. の Bulletin, Circular, Professional Paper/EERC Report/電力中央研究所報告，など）の受入・管理は，従来の紙の受付簿では非常に面倒であった．ファイルメーカー Pro を使って，受入順に入力したデータを適宜ソートすることにより番号順等自在に変えることができるので，作業および管理がしやすくなった．

## 2. 表計算ソフト EXCEL を使って

### 購入雑誌の書店別、経理口別リストの作成

データ項目として雑誌タイトル、購入書店名、購入通貨、支払の経理口等を入力し、全ての項目別リストが出せるようにした。

### 複写機使用料金の集計

## 3. その他

### 各種データベースへの接続

閲覧室に Macintosh 1 台を設置し、利用者が自由に各種データベースにインターネットでアクセスし情報検索ができる環境とした。図書室からアクセスできるシステムとデータベースには、以下のようなものがある。

大型計算機センター（大計セ）：Chemical Abstracts, INSPEC 等

大計セで所蔵しているデータベースは少ない。京大や学情セなどの第二センターに入るためのゲートウェイである。

学術情報センター（学情セ）：図書雑誌全国所蔵目録、科研費 DB, MathSci, SciSearch など

京大計算機センター：INSPEC, SAIGAI Data Base など  
東大図書館：東大 OPAC（東大図書雑誌所蔵目録）、CAPCAS, SciSearch など

大計セ、学情セ、京大のシステムにアクセスするには事前（年度始め等）に利用申請が必要だが、図書掛として申請済みなもので利用者はいつでも閲覧室から自由に検索できる。WWW のブラウザもインストールしてあるので、他機関のデータベースにも簡単にアクセスできる。

### 図書室ホームページの立ち上げ

研究所で WWW サーバを立ち上げた時に図書室もホームページを持った。内容は図書室利用案内のもので、これまで図書室オリエンテーションとして使っていたビデオが現状に合わなくなったので、その代替えとして使おうと考えた。しかしその意図からはこのホームページはあまり成功したとは言えない。対外的な図書室案内としてはともかく、所内研究者（特に新しく地震研究所に来られた方）への図書室利用案内にはビデオの方が優れていると思われる。後述する和古書と彙報総索引のデータベースを組み込んで、所内外の利用者がインターネット経由でアクセスし自由に検索できるようにした暁には、インパクトのあるホームページになるのではないかと期待している（図 1）。

## データベースの作成

### 1. 地震研究所図書室で所蔵している和古書資料目録の刊行とデータベースの作成

地震研究所図書室は鯨絵をはじめとする瓦版などの和古書約 600 点を所蔵していて、これらは主として地震、火山、

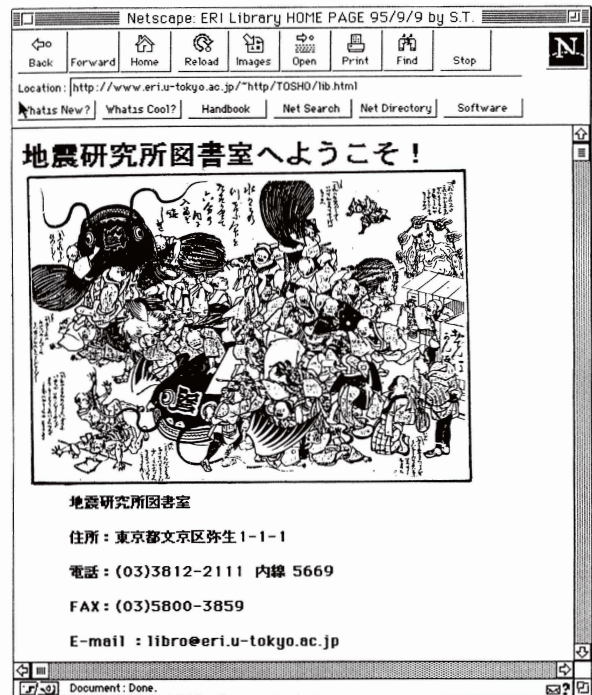


図 1. 地震研究所図書室 WWW ホームページ。

津波など地震研究所に関連深い、災害をテーマとしたものが集められている。鯨絵の中でもポピュラーな“志んよし原”や“鯨退治”などは、自治体などが発行する防災に関連する出版物の表紙やポスターとして頻繁に使われ、その他、教育的図書や地震に関連した著作の挿し絵、また報道番組のなかでも度々登場するなど（特定の和古書に関しては）、研究所内は無数のこと、研究所外での知名度も高い。

これらの和古書が特定のものに限らずさらに多くの場面で利用されるよう、また歴史地震・火山研究の面からも、所内外の研究者にその存在を知って頂きたいと、図書掛ではこの貴重な資料の図版付き目録（図録）刊行を計画している。

### 作業の進め方

図録刊行に関する作業は以下の順を追って進める予定である。

1) 資料のフィルム化：古文書（冊子体）以外の全資料はフィルム化し、資料の劣化を防ぐため利用の際は現物の代わりにフィルムを貸し出すようにする。

2) 資料のデータベース化：データベースソフトはファイルメーカー Pro を使う。

データ項目（フィールド）は

- a. 標題
- b. 主題：地震、火山、津波、火事、洪水・・・等
- c. 刊行方式：木版、木版（瓦版）、筆写本、活版印刷
- d. 資料形態：災害地図、災害絵図、古文書、文書、鯨絵、地図、活字本

- e. 地域
- f. 和暦
- g. 西暦

などとし、データはすべての項目から任意の文字列で検索できるようにする。

3) フィルムとデータファイルを原稿として、冊子体の図録を出版する。

4) 最終的にはデータと画像を WWW で公開し、所外の利用者もタイトルや災害事項から検索できるようにする。

今年度 2) の作業が終了したので、所内の希望者にはデータをフロッピーディスクまたは E-mail で配布し、目録として頂くことにした。また、図版は入れずにデータのみで簡単にページレイアウトを出力し、それをコピーして暫定版として出した。

#### 資料の内訳

約 600 点あまりの和古書は、鯉絵 99 点、鯉絵以外の瓦版 158 点、その他の古文書類 196 点、それと地震研究所初代所長の石本巳四雄氏が個人的に収集し、図書室に寄贈された石本文庫の中の和古書 139 点である。

記述されている災害別の内訳をみると、地震関係 404 点、津波 39 点、火事 289 点、洪水 44 点、火山 39 点、暴風雨 17 点、天文学 40 点、地理学 13 点、気象 3 点、測地学 3 点、その他（含不明）119 点となっている。一つの資料が複数の災害について記述しているものもあるため、災害別資料点数は現物より多い。

## 2. 地震研究所彙報の総索引の刊行とデータベースの作成

彙報の編集発行の事務方を担当している図書掛にとって、総索引作成は懸案事項の一つであったが、具体的な切り口がつかめないでいた。それが、パソコンが配布され、ファイルメーカー Pro を使って仕事をした結果、にわかに実現可能な業務として浮かび上がってきた。

案を練る段階では

- a) カード型のファイルメーカー Pro で大丈夫か？  
リレーショナルデータベースが良いのではないか？
- b) 総索引としては著者別、タイトル別、サブジェクト別が考えられるが、それら全ての索引にするのか？それとも一項目のみの索引でよいか？
- c) 英語索引（日本人著者はローマナイズする）にするか日本語索引にするか？

という問題が出されたが、種々検討した結果図書掛として原案をまとめ、これを学術報告委員会ですらに検討して頂き方針が確定した。

#### 仕様

著者別総索引のみとする。

全て英語にする。日本人著者名はローマナイズする。

使用ソフトはファイルメーカー Pro

データ数 約 4600 件

データ項目（フィールド）:

著者名

著者数

欧文標題

論文言語

巻・号・頁・発行年

作業は以下のように進めた。

- 1) データ入力約 4600 件は業者に依頼する。
- 2) データファイルが完成した段階で所内の研究者にフロッピーディスクで配布する。
- 3) ページレイアウトし、出力、それを完全原稿（Camera ready 原稿）としてダイレクト印刷で出版する。（約 240 頁、彙報の配布先に配布する）
- 4) 最終的にはデータを WWW で公開し、所外の利用者も著者名、タイトル、出版年などから検索できるようにする。